

Title	Vector lattice二於ケル積分論（Ⅰ）
Author(s)	小笠原，藤次郎
Citation	全国紙上数学談話会． 233 p.859-p.872
Issue Date	1942-03-18
oaire:version	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/74951
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

1020. Vector lattice = 於ケル 積分論 (I)

小室原 藤次郎 (広島文理大)

vector lattice / 表現論⁽¹⁾ カラ vector lattice
ヲ値域トスル 点函数ノ積分論ニツイテ述ベル。既ニコノ方
面ニハ Bochner⁽²⁾ 及ヒ泉氏⁽³⁾ノ立派ナ研究ガアルガ茲デ
ハ表現論ヲ如何様ニ利用スルカニ重心ヲオキ積分論ソノモ
ノニツイテヲラエル場合ヲ論及スルヤウニハ努メナイ。從
ツテコノ見地カラ記述シ易イ場合ニ限ツタ。主トシテ両氏ノ
トリアゲタ例題ヲ中心議題トシテ理論ノ展席ヲ行フコト
ニスル。

(1) 全國紙上數學談話會 998, 999 参照, コレ等ニ於ケル記法
ノ定義等断リナシニ用フル。

(2) Proc. Nat. Acad. Sci. 1940.

(3) 全國紙上數學談話會 978.

(1) 相対一様連続函数 / 積分論

§1 定義

X を σ -complete vector lattice, 基本区間 $a \leq t \leq b$ 上 / X の値域トスル函数ヲ $x(t), y(t)$ 等ヲ表ス. 普通ノ連続函数ノモツ性質ノ一ツ "一様連続性" ヲトリアゲテ (Kantorovich = ヨル)

定義 forall $0 < \epsilon \in X$ = 對シ ($x(t)$ = 依存スルカ) 任意ノ正数 ϵ ヲ與ヘルトキ正数 δ が定マツテ $|t - t'| < \delta$ / トキ常ニ $|x(t) - x(t')| < \epsilon$ が成立スルトキ $x(t)$ ハ ϵ = 関シテ一様連続或ハ單ニ相対一様連続ナリトイフ.

$x(t)$ が ϵ = 関シテ一様連続ノトキ $\epsilon' \geq \epsilon$ ナル ϵ' ヲトレバ ϵ' = 関シテ一様連続ナル又 (0) - 有界デモアルカラ以下ニ於テハ $|x(t)| \leq \epsilon$ が成立スルモノトシテ論ズル. Lipschitz 條件 (Lipschitz 常数ハ X ノ要素) ヲ満足スル函数ハ明ニ相対一様連続ナル. 今相対一様連続函数ノ全体ヲ \mathcal{L} トスレバ次ノ定理ノ意味及ビソノ成立ハ殆ンド自明ナル.

定理 1.1. \mathcal{L} ハ vector lattice ヲ作ル. $\alpha(t)$ ヲ任意ノ実連続函数, $x(t) \in \mathcal{L}$ トスレバ $\alpha(t)x(t) \in \mathcal{L}$ が成立スル.

(証) 略.

サテ $x(t)$ ヲ ϵ = 関シテ一様連続トシ基本区間ノ分割 $\Delta: a = t_0 < t_1 < \dots < t_n = b$ = 對シ Riemann 和 S_Δ ヲ作ル. 茲ニ $S_\Delta = \sum_{k=0}^{n-1} (t_{k+1} - t_k) x(\tau_k)$, $t_k \leq \tau_k \leq t_{k+1}$

實函数ノ場合ト全ク同様ノ過程 = ヨッテ分割ノ norm が 0
= 収斂スルトキ S_Δ ハ一定要素 = e = 同シテ相對一樣収斂
スルコトが証明出來ル。

コノ極限值ヲ $x(t)$, $[a, b]$ 上ニ於ケル積分トイヒ

$$\int_a^b x(t) dt$$

ヲ表ハス。

今表現論トノ關係ヲ見ルタメニ e ヲ生成要素トスル主
ideal $\sigma(e)$ ヲ考ヘ此ヲ e が恒等的 = 1トナル様表現
Boole 空間 (σ -complete Boolean algebra =
對應スル)ノ連続函数ノ vector lattice = 表現スル。
 $x \in \sigma(e)$ = 對應スル函数ヲ $f_x(p^*)$ ト表イタガ茲デハ
簡單ノタメ $x(p^*)$ ト書クコト = スル。コノトキ次ノ等式が
成立スルコトハ積分ノ定義カラ自明デアアル。

$$\int_a^b x(t) dt_{(p^*)} = \int_a^b x(t)_{(p^*)} dt,$$

$$\int_a^b d(t)x(t) dt_{(p^*)} = \int_a^b d(t)x(t)_{(p^*)} dt.$$

茲ニ $d(t)$ ハ實數値連続函数デアアル。コレニ依ツテ理論
ハ實數値函数ノ場合ニ歸スルコトが可能トナル。

§2. Fourier 級數論

基本區間ヲ $[0, 2\pi]$ トシ $x(t) \in \mathcal{L}$ = 對シ Fourier 係
數, Fourier 級數ヲ普通ノ場合ノヤリニ定義スル。

$$a_0 = \frac{1}{\pi} \int_0^{2\pi} x(t) dt, \quad a_n = \frac{1}{\pi} \int_0^{2\pi} \cos nt \cdot x(t) dt,$$

$$b_n = \frac{1}{\pi} \int_0^{2\pi} \sin nt \cdot x(t) dt \quad n=1, 2, 3, \dots$$

$$x(t) \sim \frac{a_0}{2} + \sum a_n \cos nt + b_n \sin nt$$

$a_n, b_n (n=1, 2, 3, \dots)$ は (0) -有界族ヲテ §1 及び表現論, 実函数 / 場合 / Riemann-Lebesgue 1 定理ヲ使ッテ

定理 2.1 $n \rightarrow \infty$ ノトキ $a_n \rightarrow 0(0), b_n \rightarrow 0(0)$ 従ッテ Riemann-Lebesgue 1 定理 = 基礎ヲオク殆ンド / 定理が成立スル。例ヘバ $a_n = b_n = 0, a_0 = 0$ ノトキ $x(t) \equiv 0$ 。

定理 2.2. X が単位ヲモチ $x^2(t)$ が存在シ $x(t)$ ト共 = $x^2(t) \in L$ ノトキ a_n^2, b_n^2, a_0^2 が存在シテ

$$\frac{1}{\pi} \int_0^{2\pi} x^2(t) dt = \frac{a_0^2}{2} + \sum (a_n^2 + b_n^2)$$

定理 2.2 = 於テハ $x^2(t) \in L$ ヲ假定シタガ Parseval 1 關係ヲ單ニ手段トシテ必要トスル場合ハ $X =$ 単位 / 存在ヲモ假定スル必要ハナシ。§1 ノ終リ = 説明シタヌウ = 凡テ單位トスレバ $x^2(t)$ ハ常ニ存在シテ $x^2(t) \in L$ が成立スル。従ッテ Zygmund / 本 / 証明法 = 存ッテ $x(0) = x(2\pi)$ ノトキ。

定理 2.3. $x(t) \in Lip \alpha, (\alpha > \frac{1}{2})$ ノトキ $\sum |a_n| + |b_n|$ ハ收斂スル。

定理2.4. $x(t) \in Lip \alpha (\alpha > 0)$; $x(t) \in BV$ /
トキ $\sum |a_n| + |b_n|$ ハ 収斂 スル。

(注) $x(t) \in L^2$ / トキ $\left\{ \frac{a_0^2}{2} + \sum (a_n^2 + b_n^2) \right\}^{\frac{1}{2}}$ ハ X
= 単位ノ在, 非在ノ如何ニ拘ラズ 單獨的ニ 定義スルコトガ
出来ル。何者、一般ニ $x_k, (k = 1, 2, \dots, n) \in X$ ノ 任意
= トルトキ $\sum c_k^2 = 1$ $\left\{ \sum c_k x_k \right\}$ ナ 表サレル 要素ハ 常ニ 存在
シ, モ X = 単位ガ 存在シ x_k ガ 定義サレ得ルトキハ $\left\{ \sum x_k^2 \right\}^{\frac{1}{2}}$
ヲ 表ス。従ツテ 上ノ 要素 = ヨツテ $\left\{ \sum x_k^2 \right\}^{\frac{1}{2}}$ ヲ 定義スルコ
ト スル。§1ノ 終リノ e ノ 単位トスルトキ Parsevalノ 関
係式ノ 成立スルコトカラ 常ニ

$$\bigvee_n \left\{ \frac{a_0^2}{2} + \sum_1^n (a_k^2 + b_k^2) \right\}^{\frac{1}{2}}$$

ガ 存在スル。コレヲ $\left\{ \frac{a_0^2}{2} + \sum (a_k^2 + b_k^2) \right\}^{\frac{1}{2}}$ ト 書クコト = ス
ル。又 一方ニ 於テ Riemann 和ノ 代リ = $\left\{ \sum (t_{k+1} - t_k) x^2(t_k) \right\}^{\frac{1}{2}}$
ヲ 考ヘ 分割ノ norm ガ 0ニ 収斂スルトキ (0)ニ 収斂スル

極限ヲ $\left[\int_0^\pi x^2(t) dt \right]^{\frac{1}{2}}$ ト 書クトキ

$$\left[\frac{1}{\pi} \int_0^{2\pi} x^2(t) dt \right]^{\frac{1}{2}} = \left\{ \frac{a_0^2}{2} + \sum (a_n^2 + b_n^2) \right\}^{\frac{1}{2}}$$

ノ 成立ガ 分ル。此ノ 考ヘ方ニ 従フ トキ 任意ノ f = ツイテ
Fourier 係数ノ 関係式ヲ vectorニ 値函数ノ 場合ニ 翻訳
スルコトガ 出来ル。

§3. 概週期函数

$X + iX$ ($x + iy$ ノ 全体) ノ 値域トスル 函数 $x(t)$,

$-\infty < t < +\infty$ を考へル. $z = |x+iy| = \{x^2+y^2\}^{\frac{1}{2}}$ を表ス.

定義 アル正要素 $e(x(t) = \text{依存スル})$ が存在シ e = 閉シテ 一様連続ナ函数 $x(t)$ が次の條件ヲ満足スルトキ 概週期函数ナリトイフ. 即チ $\{t_n\}$ ヲ任意ノ実数列トスルトキ 部分列 $\{t_{n_k}\}$ が存在シテ $\{x(t+t_{n_k})\}$ が e = 閉シテ 相對一様收斂列ヲ作ル.

(注) 抽象群上ノ場合ト 閉聯シテ上ノ 定義ノ形ヲトツタガ 轉移数ニヨッテ 定期シテモヨイ.

コノ場合モ §1 = 説明シタ方法ヲ 数値函数ノ場合ニ 歸スコトが出来次ノ定理が成立スル.

定理 3.1. *Fourier* 指数が一次的独立ナ *Fourier* 級数ハ一様收斂スル.

(註) 例ヘハ Bohrノ本.

Fourier 係数が正ノトキ 係数ノ和が收斂スルトイフ定理ニナリタツ.

(II) *Vector lattice* = 於ケル Bochnerノ積分

§4. Bochnerノ定義

X ヲ K_0 型 regular vector lattice, $[a, b]$ ヲ 基本区間トスル. 先ヅ Bochnerノ 與ヘタ 定義ヲ 思ヒ出ス.

定義. $|x_n(t) - x(t)| \leq a_n$, $a_n \downarrow 0$ ナル a_n が存在スルトキ $x_n(t)$ ハ $x(t)$ = 一様收斂スル.

定義. $\varepsilon > 0$ を任意の正数とする. 高々測度 ε の集合を除いて $x_n(t)$ が $x(t)$ に一様収斂スルトキ $x_n(t)$ は $x(t)$ に測度収斂スルトイフ.

定義. $[a, b]$ が互に共通点のない有限個の可測集合 E_k に分れる各 E_k 上で定義された単調増加要素としての函数 f を単函数トイフ. E_k 上で α_k 以上の値をとる単函数 $f(t)$ の積分を $\sum |E_k| \alpha_k$ で定まる. これを $\int_a^b f(t) dt$ とかく.

定義. $x(t)$ がコレに測度収斂スル単函数列 $f_n(t)$ をモットに可測トイヒ, コノ単函数列 $f_n(t)$ を可測 (定義) 列トイフ.

定義. 可測函数 $x(t)$ の可測定義列 $f_n(t)$ が $m, n \rightarrow \infty$ のとき $\int_a^b |f_n(t) - f_m(t)| dt \rightarrow 0$ のとき $x(t)$ は可積分, $f_n(t)$ を積分定義列ト云フ.

定理 4.1. $x(t)$ が可積分ノとき積分定義列 $f_n(t)$ 如何ニカハラズ $\int_a^b f_n(t) dt$ は同一ノ極限值ヲモツ.

(証) 可積分函数, linearity から $x(t) = 0$ の場合は証明スレバヨイ. 表現論ニヨリ表現空間ノ連続函数ヲ表現スルトラバ容易ニ確メルコトヲ得ル. 即チ $f_n(t)$ が 0 の積分定義列トスレバ $f_n(t)_{(p^*)}$ は $n \rightarrow \infty$ のとき測度 0 の集合ヲ除イタ t の値ニ対シ第一種集合ヲ除イク表現空間ノ点集合 Ω' が存在シ $p^* \in \Omega'$ のとき $f_n(t)_{(p^*)} \rightarrow 0$. マタ $p^* \in \Omega'$ のとき $\int |f_n(t)_{(p^*)} - f_m(t)_{(p^*)}| dt \rightarrow 0$ ($m, n \rightarrow +\infty$) トシテヨイカラ $p^* \in \Omega'$ のとき $\int_a^b f_n(t)_{(p^*)} dt \rightarrow 0$. 且ツ $\int_a^b f_n(t) dt$ は (0) に収斂スルカラコレノ極限值

ハデアレ。

此ノ定理カラ次ノ定義ハ意味ヲモツコトナル。

定義. $x(t)$ ヲ可積分トスルトキ $x(t)$ ノ積分定義列
 $s_n(t) =$ 對シ $x(t)$ ノ $[a, b]$ 上ノ積分ヲ

$$\int_a^b x(t) dt = (0) - \lim \int_a^b s_n(t) dt$$

ト定メル。

定理4.2. 可積分函数ニヨツテ *majorize* サレル可測函数ハ可積分ニツテ (0) - 有界 + 可測函数ハ可積分デアレ。

(証) 定理4.1ト同論法。

可積分函数 $x(t)$ ニ對シテハ普通トラレル方法ニ從ツテ
 $\int_E x(t) dt$ ヲ定義スルコトが出来ル、コレニツイテハ

定理4.3. 可積分函数 $x(t)$ ニ對シ $F(E) = \int_E x(t) dt$
トオクトキ $F(E)$ ハ (0) - 有界, (0) - 完全加法的, (0) - 全
連續デアレ。

(証) 定理4.2ノ証明ノ注意ト同ジ。

Bochnerハ逆ニ (0) - 全連續, 加法的集合函数ト不
定積分トノ關係ニツイテ述ベテキルガ彼ノ積分定義ガコノ要
求ニ應ズルヤ否ヤハ私ニハ分ラナイ。此ノ問題ハ後デ論ズル
コトニスル。彼ハ尚ニ三ノ可測函数, 可積分函数ニ關スル性
質ヲ述ベテキルガ以上ノ外ニ次ノ諸定理が成立スル。

定理4.4. 可測函数, 可積分函数ハ夫々 *vector*
*lattice*ヲ作り實數値可測函数ト可測函数ノ積ハ可測,
實數値有界可測函数ト可積分函数トノ積ハ可積分デアレ。

定理4.5. X = 単位が存在シ $x(t)$ ハ可測, $x^2(t)$ が可積分ノトキ $x(t)$ モ可積分デアル。

§5. Fourier 級数論

X が regular, $[0, 2\pi]$ が基本区間トシテ可積分函数 $x(t)$ を考へル。定理4.4. = ヨツテ §2ト同様ニシテ Fourier 係数及ビ Fourier 級数ヲ定義スルコトが出来ル。コレニツイテ §4 = 使用シタ表現論ノ方法 = ヨツテ Riemann-Lebesgueノ定理, 又定理4.5. を使ッテ Parsevalノ関係式が成立スル。斯ノ如クシテ vector 値点函数ノ理論 = 実数値函数ノ理論ノ翻訳トシテ成立スル面ノ存在が分ッタリケデアル。

Bochnerノ理論ハ可測函数ノ定義が狭ク, 従ッテソレニ原因スル不便モ起リ得ルカラ, 次ニ稍一般ニ定義ニツイテ述ベル。

(III) Vector lattice = 於ケル可測函数ノ積分論

§6. 可積分函数

X が次ノ条件ヲ満足スル σ -complete vector lattice トスル。

(a): $a \in X$ 任意ノ正要素トスルトキ a = 正值ヲ與ヘル (0)-連続正線型汎函数が存在スル。

コノ条件ハアトデ分ルヤウ = 積分ノ定義ヲ單獨ナラシメルタメ導入シタ充分条件デアツテ通例ノ Banach lattice

(10)-収斂が (b)-収斂ヲ伴フ σ -complete vector lattice

ヲナス) デハ常ニ満足サレルモノナル。

定義. 基本区間 $[a, b]$ 上ノ單函数及ビソノ積分ノ定義ハ §4 ノモノト同シ。

定義. 殆ンドスベテノ点ヲ單函数列ノ (0) -收斂極限トシテ表サレル函数ヲ可測函数, 單函数列ヲ可測函数ノ可測定義列トイフ。

定義. 可測函数 $x(t)$ ノ可測定義列 $\{\delta_n(t)\}$ ナ次ノ如クトリ得ルトキ可積分, $\{\delta_n(t)\}$ ナ積分定義列トイフ。

$n, m \rightarrow \infty$ ノトキ

$$\int_a^b |\delta_n(t) - \delta_m(t)| dt \rightarrow 0 \quad (0)$$

定理 6.1. $x(t)$ ナ可積分函数トスルトキ積分定義列 $\{\delta_n(t)\}$ ノ如何ニカコハラズ $\int_a^b \delta_n(t) dt$ ハ同一ノ (0) -收斂ノ極限ヲモツ。

(註) 可積分函数ノ *linearity* カラ $x(t) \equiv 0$ 且ツ $\delta_n(t) \geq 0$ ノ場合ヲ証明スレバヨイ。 $f(x)$ ナ (0) -連續正線型汎函数トスルト $f((0)\text{-}\lim \int \delta_n(t) dt) = \lim f(\int \delta_n(t) dt) = \lim \int f(\delta_n(t) dt)$. コレガオトリルコトハ $f(\delta_n(t))$ が殆ンドスベテノ点ヲ 0 ニ收斂スルコト及ビ $m, n \rightarrow \infty$ ノトキ $\int |f(\delta_n) - f(\delta_m)| dt \rightarrow 0$ ナルコトカラ分ル。故ニ條件 (4) カラ $(0)\text{-}\lim \int \delta_n(t) dt = 0$

従ツテ次ノ定義カラ可積分函数ノ積分が單獨的ニ定マルコトヲ知ル。

定義. $x(t)$ ナ可積分函数, $\{\delta_n(t)\}$ ナソノ積分定義

列トスレバ $x(t)$ ノ積分ヲ $\int_a^b x(t) dt$ ト書キ次ノ如ク定義スル。

$$\int_a^b x(t) dt = (0) - \lim_n \int_a^b s_n(t) dt$$

定理 6.2. 可測函数, 可積分函数ハ夫々 *vector lattice* ヲ作ル。實數可測函数ト可測函数ノ積ハ可測, 有界ノ實數値可測函数ト可積分函数ノ積ハ可積分ナル。

(証) 自明。

次ニ表現論ヲ使フトキ可測函数トノノ積分ノ表現函数ノ間ニ如何ナル關係ガアルカヲ明ニスル。

簡單ノタメ可積分函数 $x(t) \geq 0$, \therefore 積分定義列 $s_n(t) \geq 0$ ヲ考ヘル。

X ノ σ -ideal ノ作ル σ -complete Boolean algebra ノ表現 Boolean 空間ヲ \mathcal{S}_b ノノ點ハ一般ニ p^* デ表ス。 \mathcal{S}_b ノ *basic open set* ヲ含ム最小ノ Borel field ヲ考ヘル。 $f(x)$ ヲ任意ノ (0) -連続正線型汎函数トスルトキ $f(x) = \int \dots$ ヲ導入サレル完全加法的測度ヲ $\mu(E)$ トスル。 今 $\bar{q}(t, p^*) = \overline{\lim_n s_n(t)}_{(p^*)}$, $\underline{q}(t, p^*) = \underline{\lim_n s_n(t)}_{(p^*)}$ トオウトキ殆ントスベテ $t = \text{対シ}$ $\bar{q}(t, p^*) \wedge x(t)_{(p^*)}$ ト第一種ノ集合ヲ除イテ一致スル。 故ニ

$$\int_{\Omega} \bar{q}(t, p^*) \mu(d\varepsilon) = f(x(t))$$

從ツテ

$$\int_{\Omega} \mu(dF) \int_a^b \bar{\varphi}(t, \bar{y}^*) dt = \int_a^b dt \int_{\Omega} \bar{\varphi}(t, \bar{y}^*) dF = \int_a^b f(x(t)) dt$$

$\underline{\varphi}(t, \bar{y}^*) =$ 對スル同様ノ式カラ

$$\int_a^b \bar{\varphi}(t, \bar{y}^*) dt \neq \int_a^b \underline{\varphi}(t, \bar{y}^*) dt$$

ヲ満足スル \bar{y}^* ノ集合ハ條件 (2)ノタメニ第一種集合ヲ作ル。
從ツテ第一種集合ヲ除イテ Ω' ノ上テ各々ノ $\bar{y}^* \in \Omega' =$ 對シ
殆ンドスベテノ $t =$ ツイテ ($\bar{y}^* =$ 依存スル) $\bar{\varphi}(t, \bar{y}^*)$
 $= \underline{\varphi}(t, \bar{y}^*)$ 。

以上ニヨリ、一般ノ場合可積分函数 $x(t) =$ ツイテ次ノ
コトガ分ル。第一種集合ヲ除イテ殆ンドスベテノ点 t デ (\bar{y}^*
 $=$ 依存スル)。 $\Delta_n(t, \bar{y}^*)$ ノ極限ガ存在 $m, n \rightarrow \infty$ ノトキ

$$\int_a^b |\Delta_n(t, \bar{y}^*) - \Delta_m(t, \bar{y}^*)| dt \rightarrow 0$$

且ツ

$$\int_a^b x(t) dt, \bar{y}^* = \lim \int_a^b \Delta_n(t, \bar{y}^*) dt = \int_a^b \lim \Delta_n(t, \bar{y}^*) dt$$

ナル關係ガ成立スル。コレヲ使ツテ次ノ諸定理ガ証明出來
ル。

定理 6.3. 可積分函数ニヨツテ majorize サレル
可測函数ハ可積分。從ツテ (1) - 有界可測函数ハ可積分デ
アル。

定理 6.3. 可積分函数 $x(t)$ ガ殆ンドスベテノ点ニ於
テ可積分函数列 $x_n(t)$ ノ (1) - 收斂極限トシテ表サレ、

且ツ $x_n(t)$, $x(t)$ が majorize スル可積分函数が存在スルトキ

$$\int_a^b x(t) dt = (0) - \lim_n \int_a^b x_n(t) dt$$

定理 6.5. 可積分函数 $x(t)$ = 對シ通例方法ヲ定義サレル $\int_E x(t) dt$ が $F(E)$ ト置クトキ $F(E)$ は (0) - 有限, (0) - 完全加法的, (0) - 全連続 ($|E_n| \rightarrow 0$ トキ $F(E_n) \rightarrow 0(0)$) ノ意デアル。

定理 6.6. X が單位ヲモツトキ $x(t)$ が可測, $x^+(t)$ が可積分ノトキ $x(t)$ も可積分ナリ。

定理 6.2 ヨリ基本區間トシテ $[0, 2\pi]$ ヲトルトキ可積分函数 = 對シ Fourier 級数, Fourier 係数が定義サレ Riemann - Lebesgue ノ定理が成立スル。特ニ

定理 6.7. 定理 6.6 ノ假定が成立ツトキ Parseval ノ關係式が成立スル。

以上ニ於テハ積分ノ定義ヲ Parseval ノ關係式が成立スルヤウ且ツ可積分函数ノ不定積分 $F(E)$ が (0) - 有限, (0) - 完全加法的, (0) - 全連続 (X が regular ノトキ (0) - 全連続ハ Bochner ノ定義ト一致スル) 函数トナルヤウニ構成シテ見タ。

Hellinger 型積分 = ツイテハ別ノ題目デノベルが定理 6.6 ノ假定ノモトニ於テハ

$$\int_a^b \frac{F^2(dE)}{|dE|} = \int_a^b x^2(t) dt$$

が成立スルコトヲ注意スル。

§7. X ヲ Banach lattice トスルトキ

σ -complete vector lattice X ヲ $x_n \downarrow 0$ / ト
キ $\|x_n\| \rightarrow 0$ ヲ満足スル Banach lattice トスル (1) -
収斂ト (2) - 収斂ハ對等). norm ノツイテキルタメノ空
間ノ一様性カラ §6 ノ可測ト Bochner (Fundamenta
2 c) ノ可測トハ對等ナルコト従ツテ §6 ノ定義ヲ (0) ノ代
リニ (1) トシテモヨイコト, 可測函数列ノ (0) - 収斂極限が
可測ナルコト等が分ル. 積分ニツイテハ彼ノ可積分函数ニハ
§6 ノ積分定義列ヲ作ルコトモ可能デアルカラ §6 ノ意味デ
可積分トナル。

以下デハ集合函数ト不定積分ノ関係, Jessen ノ定理
ニツイテ述べテミタイ。